

強者の戦略

【はじめに】

12月も半ばを過ぎ、寒さが徐々に厳しくなってきましたが、体調管理は大丈夫ですか？毎年、私は冬期講習になると、声を張り上げるため、声はかれますが風邪はひきません(というよりもひけません)。

さて、先週、公民の問題編で告知をしていました予想問題で取り上げて欲しい内容ですが、早速メールをいただきました(メールをいただいた方には、この場を借りてお礼を申し上げます)。そこで、次回(来年の2月)の予想問題はこのメールから出題したいと思います。出題内容については、そのときまで楽しみに待っていてください。

今回の予想問題は、一橋大学のビジネス基礎で何度も出題されている内容なので、受験生のみなさんにも馴染みがあると思います。しかし、いざ解答を書くとなると意外に難しいものです。そこで論述においては、①嘘を書かないこと、②内容を端的に書くこと、③字数は指定された9割以上書くこと、の以上3点を最低限守るようにしましょう。①の嘘は論外です。②は一つの事柄について長々書くと、採点者の印象が悪くなります。③は字数が少ないと、知らないと思われるか、書けなかったという印象をもたれます。センター試験が終わると、二次試験対策に入りますが、上記の点に気をつけて答案作成をするように心がけましょう。

前置きが少し長くなりましたが、そろそろ解答・解説へといきます。

【解答例】

企業の社会的責任として、コーポレートガバナンス、コンプライアンス、フィランソロピー、メセナがあります。まず、コーポレートガバナンスは、企業が社会や個人のために、どのような活動の方向にあるべきかを示す考え方です。具体的には、社外取締役の増加、株主総会の機能の強化があります。コンプライアンスは、コーポレートガバナンスの基本原理の1つで、法律や規則といった法令を守るだけ

でなく、社会的規範や企業倫理を守ることまでも含まれます。フィランソロピーは、企業などによる公益活動や非営利活動をさします。具体的には、本業を通じた社会貢献、金銭的寄付による社会貢献、企業施設を活用した社会貢献、人材を活用した社会貢献があります。メセナは、企業による文化・芸術支援のことです。活動の種類には、文化事業の主催、資金の提供、非資金援助(資金以外の援助)、文化施設の開設・運営、コンクールなどの顕彰事業、企業財団などがあります。(400字)

【解説】

1. 企業の社会的貢献

そもそも、企業の社会的貢献が重視されるようになったのは、なぜでしょうか？それは、企業において、いくつかの問題がありました。具体的には、①株主総会の形骸化、②株主軽視、③監査役に企業に関係の深い人物が就任、などです。まず、①については、実質的討議がない、短時間で終了、総会屋との癒着です。次に、②については、会社の主権者が株主であるという意識が低く、意見が反映されないためです。この結果、企業の経営監視機能が低下し、不祥事が多発するようになりました。例えば、食品については、雪印事件(牛肉偽装)、不二家不祥事(期限切れ原材料)、ミートホープ不祥事(食肉偽装)などです。また、粉飾決算については、カネボウ、ライブドアなど、そして最近ではオリンパスです。その結果、株価が下がり株主が損失を被ることになります。そこで、株主は企業利益だけでなく、社会的貢献を重視するようになったのです。

2. フィランソロピーの分類

解答例にあった分類について詳しく説明します。

①本業を通じた社会貢献

企業が本来の目的である経済活動を進める中で、本業を生かした社会貢献活動も併せて行う。社会貢献活動を通して企業価値を向上することにも繋がります。

強者の戦略

②金銭的寄付による社会貢献

社会貢献活動を専門に行っている団体（NPO等）に資金提供を行う。企業としての間接的な社会貢献活動のフィランソロピー。

③企業施設を活用した社会貢献

グラウンド、体育館、会議室等の施設を無料開放し、地域の人達との交流を深めるフィランソロピー。

④人材を活用した社会貢献

- ・従業員に対し社会貢献活動を「業務命令」として実施、活動させるフィランソロピー。
- ・従業員が個人として行うボランティア活動に「休暇制度」や「表彰制度」などの形で企業が支援するフィランソロピー。

3. メセナの活動の種類

解答例にあった活動の種類について詳しく説明します。

①文化事業の主催

自主事業や主催事業のほか、自社が主体的に企画・運営に携わる活動です。企業が自社で主催するコンサート、美術展、演劇やダンスの公演などが代表的です。また、作品を鑑賞する機会を提供する以外にも、作家との交流の機会の提供やワークショップの実施などがあります。

②資金の提供

企業が外部の組織や活動に「寄付」「協賛」といった形で資金援助を行うことです。

③非資金援助（資金以外の援助）

資金による支援のほか、企業の資金以外の資源によるメセナ活動があります。以下はその一例です。

- ・マンパワーの提供
- ・場所の提供
- ・製品やサービスの提供
- ・技術・ノウハウの提供 など

④文化施設の開設・運営

日本には企業が設立・保有している文化施設が多くありますが、芸術文化に関する施設として、美術

館、ギャラリー、多目的ホール、コンサートホール、劇場などがあります。

⑤コンクールなどの顕彰事業

一般の人々を対象としたものと、アーティストを対象にしたものがあります。前者は芸術の裾野を広げ、後者は優れた芸術家を支援するものです。アーティストに与えられる賞には、すでに名を制した人の功績をたたえるもののほかに、登竜門として新人を世に送り出すものがあります。賞としては、賞金、作品発表の場・機会の提供、海外留学、楽器の貸与などがあります。

⑥企業財団

企業が基金を拠出して設立する財団。広義には、オーナー個人の出捐によって設立されたものも含まれます。芸術文化と関連のある企業財団は、主に以下の2種類に分類できます。

・助成財団

助成・奨学金・顕彰など、外部の活動支援事業を行う財団。公演や展覧会などへの助成、研究助成・国際交流助成・奨学援助、コンクールや顕彰事業の実施など。

・事業財団

自主事業・文化施設の運営や管理を行う財団。公演や展覧会などの実施、ホールや美術館などの文化施設の運営・管理など。

4. 最後に

コンプライアンスについては、解説で触れませんでした。実はこれが最も重要です。企業の法令遵守は、事件が起こるたびに聞く言葉ですが、これができていないために、事件が後を絶ちません。今回のオリンパスもそうですが、「分からなければよい」、「法に触れなければ何をやってもよい」ということが事件の背景にあるのでしょうか。

ビジネス基礎を受験する上で、こうした事件などが題材となるので、日頃から新聞やニュースをみておくようにしておきましょう。